



# 平成28年度 麗水市教師派遣事業

平成28年11月19日～26日にかけて、錦田中学の原知美教諭と中郷西中学の石川久美子教諭が、友好都市である中国の浙江省麗水市に派遣されました。麗水市の景寧中学と花園中学で教育現場を視察し教師や生徒と友好を深めました。



中郷西中学校  
石川久美子教諭

- ・日本では政治的な報道が多いが日常はどうなのか自分の目で確かめたかった。道徳はどう教えているのか、掃除は？町のあちこちで「素養」（道徳、教養）という文字を目にした。道徳教育にも努力している様子がうかがえた。
- ・全寮制のため中学生で親元を離れ、全てが団体生活の中で行われる。体操の時間は週1回ほどで、わりに毎日クラスごとにまとまって運動場を走る。掃除は専門の人がやる。帰国後の報告授業で学校生活の違いを生徒たちに尋ねると「全部違う」と答えたのが意外だった。
- ・麗水の子供達は大変人懐っこい。日本に対する憧れと同時に負けてはいないという自負もある。
- ・顔形は似ているが、文化や習慣が違う隣の国。互いに仲良くやってゆこうという気持ちは子供達からも大人からも強く感じられた。行ってみないとわからないことがたくさんあった。



英語で授業をしました



ふたりは麗水市を中心にある花園中学と中心から車で1時間ほど行ったシェ族自治県にある景寧中学校を訪れました。視察では、政治体制からくる教育制度に大きな違いを感じ、広域から集まる生徒のために校舎は1,500～2,000人収容と大規模で寮を隣接していることに驚きます。授業では教師が教え皆で唱和する教え方に違いを見ました。施設や設備が充実し電子黒板やパワーポイント教材で授業の効率化を図る、英語の授業はすべて英語で進められ発音も素晴らしいことなどに目を見張りました。

2教諭による日本紹介の授業では、石川教諭は英語で授業を進め、原教諭はパワーポイント教材の全てを中国語で準備するなど工夫をこらしました。



中国語で資料を作りました

すごい!!  
中国の勢いは



- ・今回の研修で「中国は未来に投資している」と強く感じた。農村部はまだ豊かとは言えない状態の中、学校だけは光って見えた。これも未来をつくる人を育てるためだと思った。
- ・学習環境が整った中で先生たちは誇りを持って仕事をし、生徒たちははじめて勢いがあり真剣さが伝わってくる（麗水の大学進学率は約90%）。
- ・中国全体の感想は、どこに行っても工事がされていて、まさに高度成長期まっただ中だと感じた。建物のスケールが大きく立派なものばかりだった。40代くらいの人や女性が要職に就いて力を發揮しているのを見て國に勢いがあるとはこういうことかと感じた。
- ・今回の経験で、教師として未来を見据えて行動したいと思った。そして、生徒たちにも目先にとらわれず、もっと先を考えられるようにと伝えていくことと、多くの情報が溢れる中で、正しい情報を得ることの大切さを伝えていきたいと感じた。



おみやげは  
社会の教科書



錦田中学校  
原知美教諭